

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

三河を拓くトライネット圏域創造計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県並びに岡崎市及び額田郡幸田町

3 地域再生計画の区域

岡崎市及び額田郡幸田町の全域

4 地域再生計画の目標

岡崎市及び幸田町で構成する本計画区域は、愛知県のほぼ中央に位置し、水と緑豊かな自然環境や生活環境に恵まれた地域であり、面積444.02平方キロメートルで、愛知県の8.6%を占めている。県中央部に位置することから日本の東西を結ぶ国土幹線交通網が通過する広域交通の要衝として発展し、西三河を代表する都市・岡崎市を中心に経済・教育・医療・交通・居住など様々な面で密接な関係にあり、一体性の強い日常社会生活圏を形成し、人口も着実に増加してきている。

中心都市である岡崎市は、自動車・電気機器などの機械系産業や繊維関連産業が発展し、古くから西三河地域の商業・文化・産業・教育・居住の拠点機能が集積している。また、合併によって岡崎市となった額田地区は、その大半を森林渓谷が占める自然条件の中にあり、農林業を基幹産業としてきたが、近年工業団地や住宅地の形成が進み、第二東名高速道路のインターチェンジの設置が予定されている。

幸田町は、農業地帯として発展してきたが、東西を結ぶ幹線交通網の整備や産業立地が進展し、農業、産業、居住が調和する町となっている。

このような地域特性を背景に、当地域においては、交通基盤の整備を促進しながら、既成市街地の活性化、都市機能の強化など、西三河地域の中心地区として広域的な拠点性を高めていくことが重要な課題となっている。

特に、主要幹線道路の交通量が増加し、住民の日常生活行動の広域化が進む中で、高規格道路の整備を進めるとともに、当地域内の生活・産業を支えたり、隣接市町村との交流の促進や産業活動を振興するための道路網の整備が、今後の課題となっている。

こうした都市部の課題に加え、山地から平野に至る接点にある当地域においては、里山や河川の保全と活用など、恵まれた自然を生かして、さらに快適な生活環境を整えていくことが重要である。しかしながら、近年、農林業従事者の減少や高齢化等による山林の荒廃や耕作地の放棄など地域の主要な産業である農林業の衰退を

招いていることから、都市部との交流による地域農産物の消費拡大を図るとともに、生産性の向上のための林道の整備を進め、森林の公益的機能を高める必要がある。

このような課題を解決し、県央の中心部に位置する優位性をさらに向上させるため、県中央部の幹線道路へのアクセス機能を持つ市町道を集中的に整備することなどにより、岡崎市中心部や都市間の交通機能強化による生活利便性の向上と産業基盤の強化を図る。

また、都市活力と魅力ある地域づくりを確実に進めるためには、市街地中心部の活性化は勿論のこと、郊外の良質な新市街地整備による定住人口の確保が必要不可欠である。現在、区画整理事業により整備を進めている新市街地の交通機能を高めることによって、定住人口の確保を図ることにより、都市活力と魅力の向上効果が期待される。

岡崎市額田地区においては、里山や河川の保全を図り、恵まれた自然を活かし、快適な生活環境の向上を目指すとともに、林業経営の生産基盤となる林道の整備を進め、生産性の向上を図るとともに、里山、河川など自然環境を体験し、都市住民との交流を進めるための「水とみどりの森の駅」を整備することとしている。

このように、既存の都市機能集積や豊かな自然環境、歴史・文化資源の蓄積などを生かし、広域交通網の整備により、当地域の個性を生かしながら相互にネットワーク化を図り、次代に向けて挑戦（Try）する「三河を拓くトライネット圏域」の形成を目指す。

- 目標 1 定住人口の確保による都市活力と魅力の確保
（圏域人口40万人から将来的に50万人都市圏の形成を目指す）
（住み続けたいと思う住民の割合84%を87%に引き上げる）

- 目標 2 交流人口の拡大による地域の活性化
グリーンツーリズムなど交流人口の拡大
（森の駅への訪問者数を年間18万人の水準で確保する）

- 目標 3 林業の振興
間伐等森林施業面積の拡大
（現行間伐面積約57haから5年間で20%増加させる）

- 目標 4 自然保護活動の活性化
環境意識の醸成に伴う環境ボランティア参加者の増加
（年平均2千人から5年間で3千人の水準に引き上げる）

5 目標を達成するために行う事業

(5 - 1) 全体の概要

当地域では、国道1号・23号・248号・473号を交通軸の中心に、主要地方道、一般県道によって生活、産業、交流など多機能な広域道路網が構築されており、良好な住宅地が形成され、大規模工場や大型商業施設が集積している岡崎市南西部と幸田町の圏域と水源や豊かな自然を有する岡崎市東部を環状的に結んでいる。

この道路網を補完・充足する道路として岡崎市道、幸田町道を整備し、圏域内や隣接市町村との交流の促進や産業活動の振興を図るとともに、林道を一体的に整備することにより生活・交流・産業振興の道としての機能を充実させることを目指す。

そこで、道整備交付金を活用し、市町村道（各市町村の認定路線）及び尾張西三河地域森林計画（平成12年12月26日公表、平成13年4月1日から10年間）に盛り込まれた林道の整備を行うことにより、既存の国道、県道やその他の道路との広域交通ネットワークを整備する。

さらに、中山間地において『水とみどりの森の駅構想』に資する里山、湿地、河川緑地等を環境保全活動と地域間交流の拠点として結ぶ自然体験ネットワークを構築し、都市部と中山間地域との交流を促進する。

(5 - 2) 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業【A3001】

整備箇所等は、別添の整備箇所を示した図面による。

[施設の種類（事業区域）、実施主体]

- ・市町村道（岡崎市、幸田町） 岡崎市、幸田町
- ・林道（岡崎市） 岡崎市、愛知県

[事業期間]

- ・市町村道 平成17年度～21年度
- ・林道 平成18年度～20年度

[整備量及び事業費]

- ・市町村道 11,528m、林道 9,849m

・総事業費

総事業費 4,241,000千円（うち交付金2,097,199千円）

（内訳）市町村道 4,076,000千円（うち交付金2,038,000千円）

林道 165,000千円（うち交付金 59,199千円）

(5 - 3) その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用して環状広域道路網の構築を図るほか、『水とみどりの森の駅』構想を一体的に展開する。

これまで環境保全活動の拠点として、地域団体、NPO、自然保護団体等に教育活動、イベント、観察会などその地の特性を活かした自主的な環境活動の場として開放してきた里山、湿地、河川緑地などを『森の駅』に位置付け、これをネットワーク化することにより、市内外からの交流人口の拡大を図り、全市的な環境保全活動につなげるとともに、これを契機とした農林業や交流産業の振興につなげる。

また、額田支所の一部を森の総合駅として整備し、活動情報誌・マップの発行、森の案内人登録、緑のインストラクターの養成など、森の駅で環境活動を行う団体の活動拠点施設、来訪者のゲストハウスに活用する。

主要な「森の駅」予定地は次のとおり。

《おかざき自然体験の森》

- ・市街地近郊の約100haの里山を体験型環境教育の場として整備
- ・市民ボランティア団体等と協働して多様な環境教育活動を実践

《北山湿地》

- ・環境省が選定した国内重要湿地のひとつ（約26ha）
- ・ボランティアによる間伐、清掃など保全活動と観察会の実施

《おおだの森》

- ・旧来から住民に親しまれてきた約67haの里山を自然体験の拠点として整備
- ・自然保護団体「山留舞会」による保全活動

《千万町茅葺屋敷》

- ・農業、田舎暮らしの体験型施設として整備
- ・地域づくり団体「じさんじょの会」による運営

6 計画期間

平成17年度～21年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

県関係部局（企画振興部、農林水産部、建設部）及び構成市町の関係部局により構成する評価チームを設置し、毎年度計画の事業の進捗状況を確認するとともに、計画終了後に必要な調査を行い、その状況を把握し、達成状況の評価、改善する事項の検討を行う。その結果については、報告書を作成するものとする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

第2 東名・額田インターチェンジの開設に伴う事項

平成17年度に着工される予定の額田インターチェンジは地域外からの広域的な交流人口のゲートウェイとなるものである。このため、岡崎市中心部から額田地区へ通じる主要な道路や第二東名高速道路額田インターチェンジ（仮称）への国・県道などの主要なアクセス道路について、円滑な通行を促す整備を推進する。